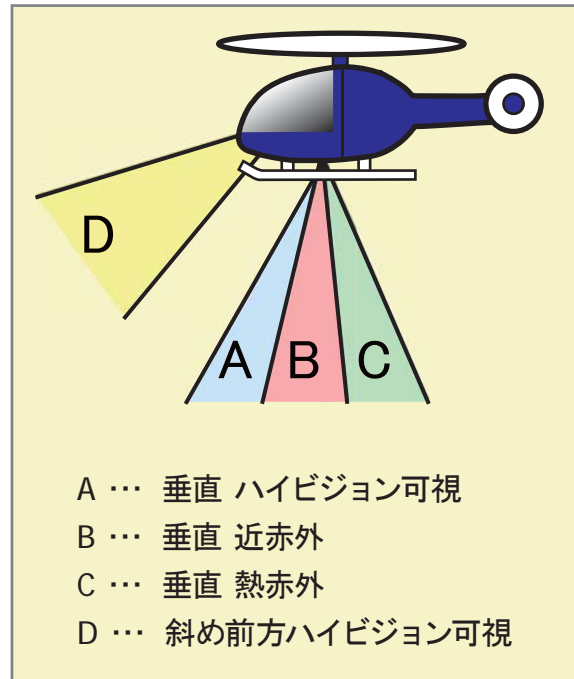
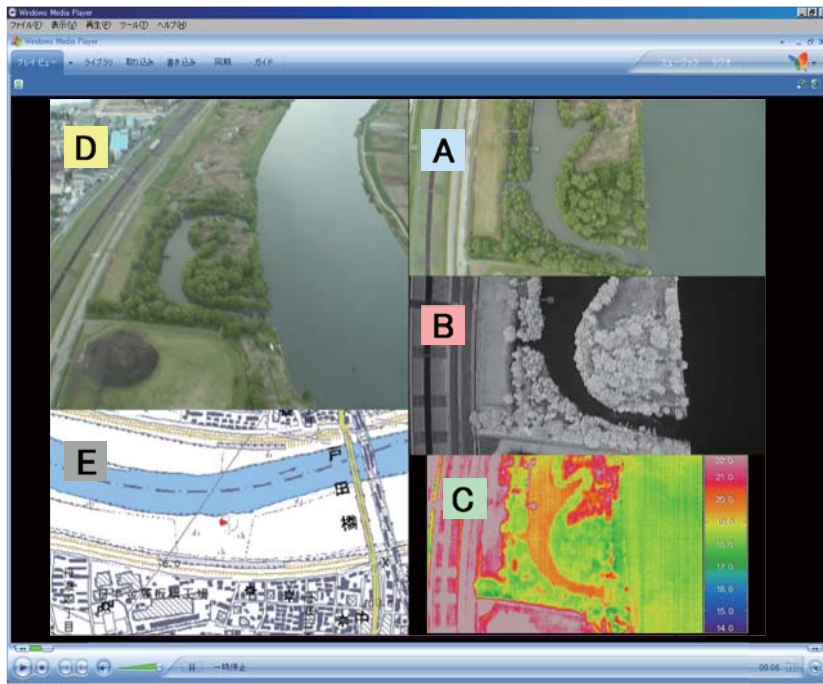


あらゆる視点から映像を取得⇒同時再生 & マップ展開！ (特許出願中)

\* 「可視」 + 「熱赤外」 + 「近赤外」 の垂直映像に加え、「前方斜め可視」映像を取得可能なカメラシステム。

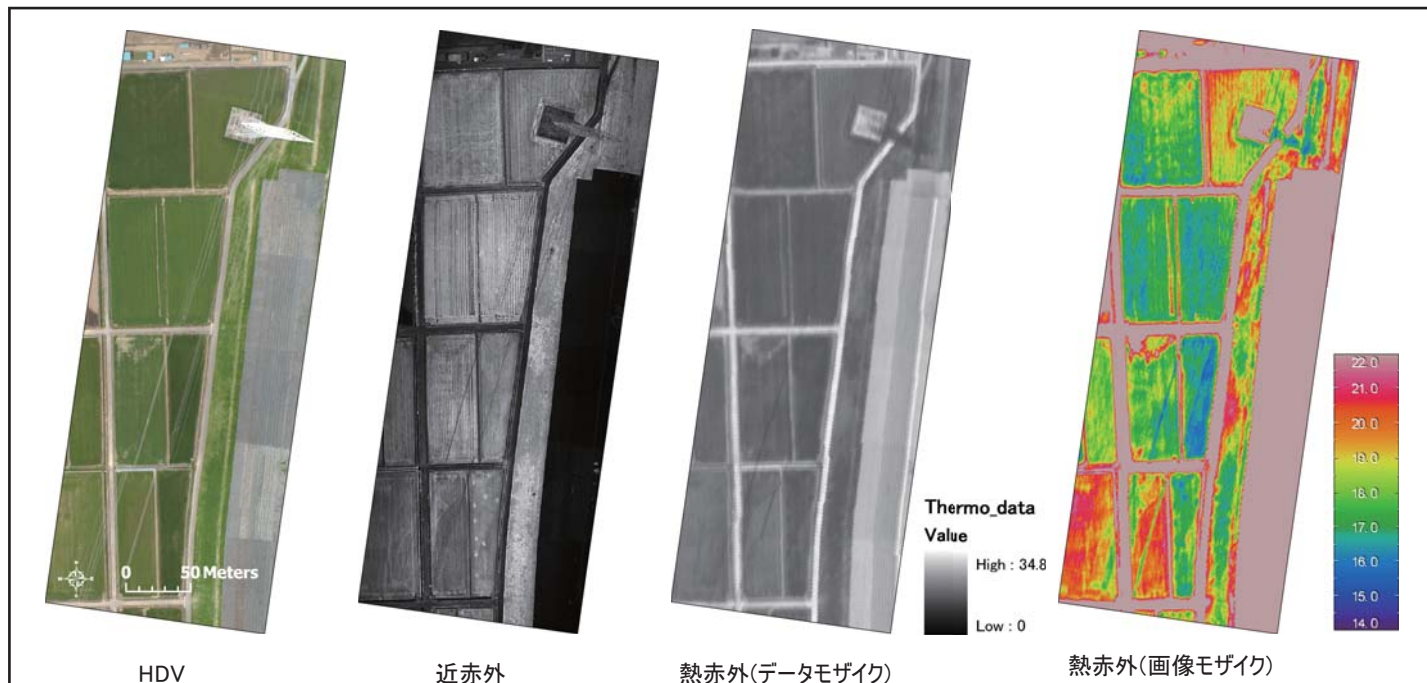
5 画面表示 \* 4 台のカメラ映像 + 位置を示す GPS 連動地図 E



- A ... 垂直 ハイビジョン可視
- B ... 垂直 近赤外
- C ... 垂直 熱赤外
- D ... 斜め前方ハイビジョン可視

※ A B C D E は自由に入れ替え出来ます。

GIS への展開 \* 垂直画像は、幾何補正及びモザイク加工が可能です



※ 熱赤外のデータ処理には2種類あります。データモザイクは、ピクセル毎に温度の数値が入っており、GISソフトを用いることで自由に表示、解析が可能です。画像モザイクは、熱情報年青から赤に塗り分けた画像で、画像処理ソフトで扱うことができます。

CONTENTS

A 可視画像 (垂直)

ハイビジョン映像のため、解像度の高い情報が得られます。(地上解像度は高度1000ftで約18cm/pixel) 通常の航空写真のように、十分お使いいただけます。

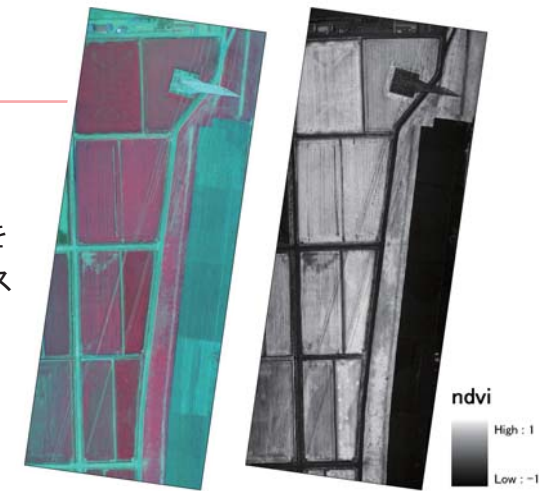
B 近赤外 植生に！

植物の緑葉は、赤領域(R)の波長を吸収し、近赤外線領域(IR)の波長を強く反射する特性があります。

これらの植物の葉の特性を利用して植物の有無や量および活性度を示す植生指標が求められます。Aの可視画像と合成させた近赤外フォスカラ画像(左側)からは、これら植生指標(右側)が算出できます。

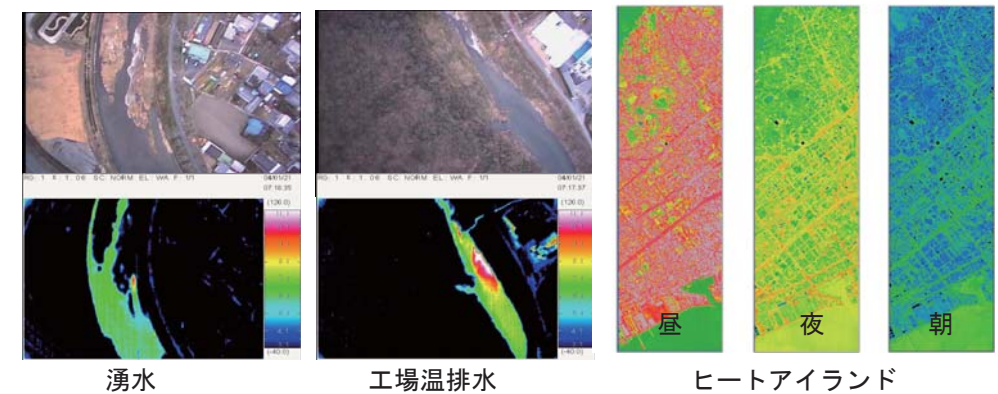
地上解像度は高度1000ftで約45cm/pixelです。

※ NDVI → 代表的な植生指標で値が1(白)に近いほど活性度が高いといえます



C 熱赤外 湧水！温排水！...

熱赤外は、河川の湧水調査、温排水調査、またヒートアイランド調査など、肉眼では見えない様々なものが発見できます。Bの近赤外画像とあわせて、熱情報と植生の関係を見ることも可能です。

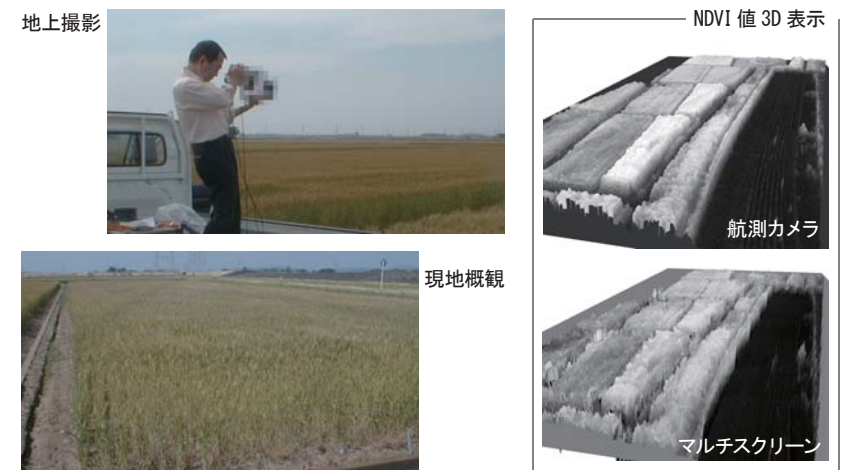
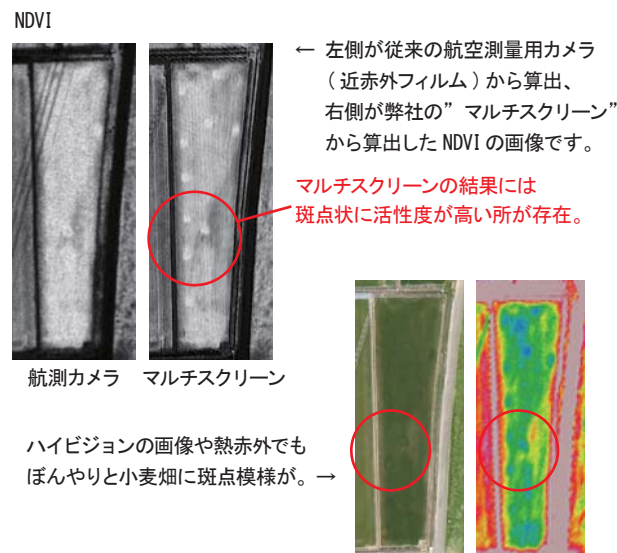


地上解像度は高度1000ftで約1m/pixelと衛星画像では得られない貴重な熱情報が得られます。

D 可視画像 (斜め前方ハイビジョン)

いわゆる空撮ビデオで、わかりやすく広報・PR用に最適です。

航空測量用カメラとの比較、そして現地確認



↑ マルチスクリーンが示した斑点模様部は、実際に5cmほど周囲より成長しており、緑も濃かったです。地域的に堤防の下を通過して水が湧き出ているとの見解もでき、小麦を刈り取ったあとに再度計測を試みる予定です。